

S H I N B I Y O

marcel

MONTHLY HAIR &
TECHNOLOGY MAGAZINE
美容研究雑誌
[マルセル]
AUGUST 1997 No.42

8



【特集】

「エイジレスパーマ」
テクニック & スタイル大研究

海外ルポ◎ニューヨークのヘアカラーリスト 「ヘアカラー代をチャージして、 カラーを台無しにするシャンプーを 売りたいくはない。お客の投資を守る、 ということが大事です」

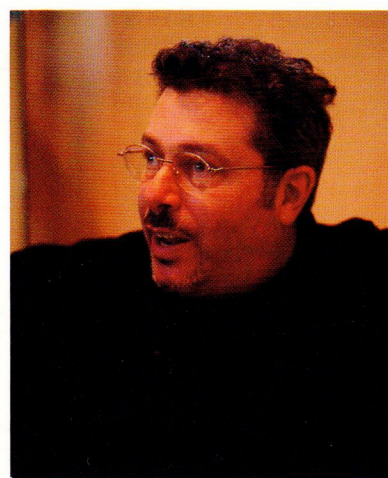
ニューヨーク郊外にある総合美容サロン『ヌーベスト&カンパニー』。ここは「ヘアカラーUSA」を設立し、カラー・シャンプーの開発者、リーランド・ハーシュが活躍するサロンだ。

Nu Best & CO. Salon | Leland Hirsch

文=あずま ゆか 写真=シラト・ケンジ
Text by Yuka Azuma Photo by Kenji Shirato



待合スペース。天井が高くゆったりしている



『ヌーベスト』のオーナーであり
ヘアカラースペシャリストでもある、リーランド・ハーシュ

映画の舞台にもなった NY郊外のメガ・サロン

ニューヨーク郊外ロングアイランド地区にメガ・サロンがある。四角いグリーン色の建物。

中では26名のカラーリスト、35名のヘアスタイリスト、3名のパーマ・テクニシャン、10名のネイル・テクニシャンなど総計110人もの人々が働いている。ここは、毎年世界中から1万人ものカラーリストを動員するセミナー『ヘアカラーUSA』を創立したカラーリスト、リーランド・ハーシュのサロンだ。『ヌーベスト&カンパニー』は、リーランドがヘアスタイリストのマイケル・マージーと共同で、24年前にオープンしたサロンである。

映画『スーザンを探して』でも舞台になった。1つの建物の中で、全ての分野に渡

るサービスが分業提供されている。

心身の美容と健康の 総合サービスを提供する

ヘアカット、ヘアカラー、パーマ、ネイル、フェイシャル、メイクアップ、フィットネス、永久脱毛、ワックス、ボディ・マッサージ。

心身の美容と健康が総合されたサロンなのだ。

共同経営者のマイケル・マージーは、10代の頃からヘアスタイリストとして活躍し、まずはニューヨーク・マンハッタンにサロンを設けたという。

その後、7店舗のサロン・チェーンへと成長し、2つの美容学校「ユーティシアナ」までを経営する若き事業家になった。

そこで1971年に、それらを1つ屋根の下にまとめようという試みのもと『ヌーベ

スト&カンパニー』サロンがニューヨーク郊外に登場したわけだ。

もと「ベスト&カンパニー」という名のデパートだった建物を改造して作られたので、『ヌーベスト&カンパニー』と名付けられた。

ゆったりとしたルックスのよい 空間をお客に提供する

正面玄関をくぐると、受け付けをはさんだ目の前に、広々としたヘアスタイリング・スペースが広がる。

右正面には客が腰かけられるスペースとコスメティックの販売、アプリケーションのセクション。

その右側には、さらにカット&ブローの予備スペースがあり、もっと右へと進むと、ヘアカラー・ルームへと広がっていく。

画期的な天窗を設けた、照明豊かな空間



正面受付スペースの後ろにヘア・カットスペースが広がる



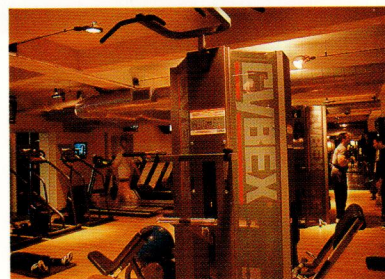
サロンの右側に設置されたカラーのスペース



ネイルスペースも完備



忙しい日にはこのカットスペースも使う



地下の会員制ジム



食事できるカフェ

は、最高にルックスの良いこちよいスペースだ。

1階奥には、10人のネイル・テクニシャンが働くスペース、パーマ・セクション、ボディ・マッサージや脱毛の部屋とシャワーが設置されている。

地下へと降りると、そこは駐車場への出入口になっていて、軽い食事がとれるカフェと、4年前に開設したフィットネスジムがある。

ベテランでも修業を必要とする徹底した教育システム

フィットネスのパーソナル・トレーナーや、栄養士とのカウンセリングも提供するというから、美容と健康の総合サービスを提供している画期的なサロンである。

1,860平方メートルの敷地に、堂々と構える『ヌーベスト&カンパニー』を、毎日

1,500人から2,000人のお客が訪れている。

『ヌーベスト』がユニークなのは、ヘアスタイリストとカラーリストの教育システムを徹底している点だ。

他のサロンで経験を積んできたベテランであろうとも、このサロンで働くには、まず最初に2年間の修業が必要なのだ。

大抵の美容師は、美容学校を出てすぐにアシスタントとして働きながら、毎週火曜日にトレーニングを積み、晴れて2年後には『ヌーベスト』のヘアスタイリスト、または、カラーリストになれるのだ。

カラーシャンプーの仕掛け人リーランド

サロン・オーナーのリーランド・ハーシュはヘアカラー・スペシャリストとして名高い。彼の開発した“アーテック・カラー・ニンハンス・シャンプー”は、この6年間、

大反響を呼んできた。

それぞれの髪色に合わせて配合されるカラー剤入りシャンプーで、ヘアカラーのメンテナンスとして最適だ。

『ヌーベスト』ではヘアカラー客の髪色に合わせて、その場でカスタムメイドのシャンプーが配合されているのだ。

いまでは他社からも多く出回っているカラー・シャンプーだが、仕掛け人は、このリーランド氏だったのだ。

「お客の投資を守る、というコンセプトなのです。お客にヘアカラー代をチャージしておいて、ヘアカラーを台無しにしていくシャンプー製品を売りつけるなんて、とんでもないと思ってね」

と、彼はカラー・エンハンス・シャンプー開発の動機を語った。

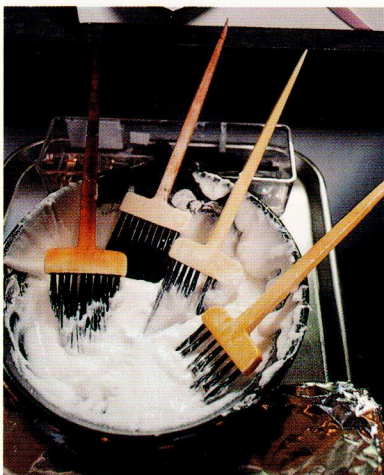
このカラー・シャンプーはサンフラワーやホワイト・ヴァイオレットなどと名付け



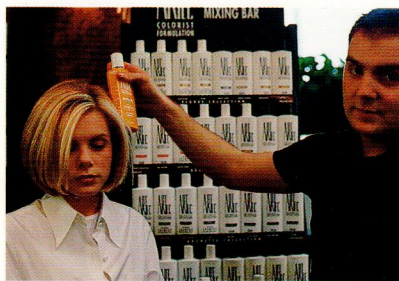
つねにリーランドのレクチャーが行われる



独自製品が並ぶ陳列棚



独自開発ヘアブラシ“アーテンセル”



シャンプーはお客の目の前で配合される



彼女の髪に合わせたカラー・シャンプー

られたカラフルな全9色。

これらのカラーとモイスチャライザーなどを混ぜて、自分に最適なシャンプーを目の前で配合してもらえるのだから、『スーパーベスト』のヘアカラー客の定着率がよいわけだ。

なぜお客が再来店してくれるのか
その理由は？

一度、来店すれば「ヘアカラーを長持ちさせる自分に合ったシャンプーを作ってくれるから」とお客はサロンに戻ってくる。

その他にも『スーパーベスト』は「テキスチャーライン」というブランドも出しており、全米でのオリジナルのヘア・プロダクトの配給でも成功を得ているサロンである。力強いメガ・サロンだ。

リーランド・ハーシュは、今までに20以上ものブランドの開発にかかわり、貢献し

てきた。まさにカラー・テクニシャンである。

常に革新的なプロダクトやテクニック、イメージなどを求める彼の姿勢は、その業績に反映しているようだ。

5年前には独自開発ブラシ「アーテンセル」を発表。毛の長さがユニークなヘアカラー用ブラシは、トレンドイなヘアカラーに重要なツールだ。

独自開発のブラシで作りあげる
“チャンキング”

この5種のブラシを使い分けながら、リーランドは金髪女性に“チャンキング”と呼ばれるヘアカラーを始める。毛先が斜めにカットされた幅広いブラシで、左右違うポイントから下に向けてと、ライトナーを塗布していく。

「60年代に流行ったストリークが、いまの

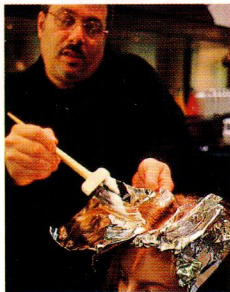
トレンドとなっています。僕はそれを2年前に、ワイルドだけど、もっと自然に見えるチャンキングにしてカラーし始めたのです。ビーチで遊ぶ子供の髪のようなヘアカラーです」

全体と違う色を強調しながらも自然に見えるヘアカラーだ。

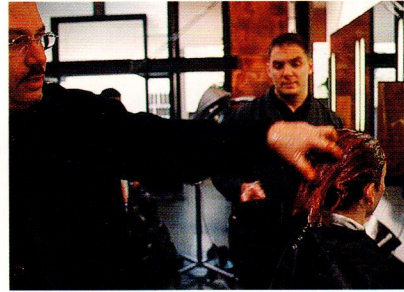
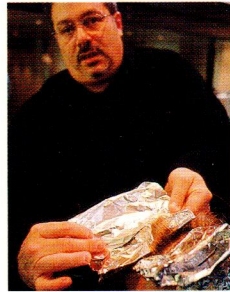
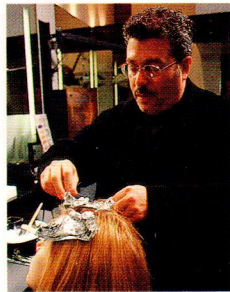
ヘアを“頭髮”ではなく
“キャンバス”として見る

次にリーランドは、もとはミディアム・ブロードだという別の女性のヘアカラーも披露してくれた。

髪の根元付近にダーク・レッドのカラーを塗布したあと、ライト・レッドのカラー剤を毛先を重点的に、手で塗り始めた。明暗の違うカラーを隣同志にしていくフィンガー・カラー・ペインティングは、指でフィーリングを感じていくようなヘアカラーだ。



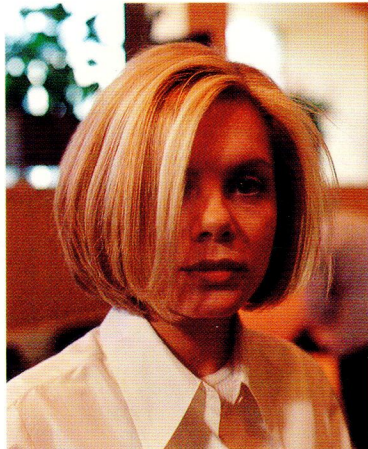
アーテンセルでストリーク・カラーを入れるリーランド



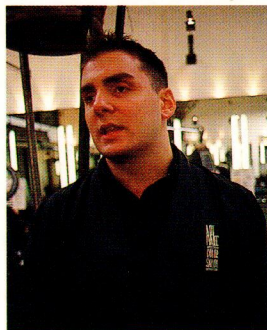
指でカラーを入れる、フィンガー・カラー・ペインティング



仕上がり



カラー塗布後、ヘアカラー・シャンプーを使う



「ヌーベスト」のトップカラーリスト、
クリスチャン・マージー



仕上がり

まるで髪がキャンバスであるかのように、リーランドはペインティングしていく。

「9歳のときからアートに、特にペインティング（絵画）に興味があったんだ」と彼は笑って指を動かした。

リーランドは今ではサロンでは働かず、特別な友人や特定の有名人など、限られた人だけにヘアカラーしているという。

21歳のトップ・カラーリスト クリスチャン・マージー

「いつもクリエイティブでいることの大切さ、それにヘアを“頭髪”ではなく“キャンバス”として見ることを、リーランドから学びました」

と『ヌーベスト』の現役トップ・カラーリストのクリスチャン・マージーが語る。

彼は21歳と若いのが、13歳のときにカラーリストになることを決心し、すぐにリーラ

ンドのもとで、その技術を学んできたベテランだ。

『ヘアカラーUSA』『インターナショナル・ビューティ・ショー』などのヘア・ショーの舞台も踏んだし、雑誌やテレビの仕事もこなしてきた。

カラーリングは人々の生活を変えられることができる

実は、彼は共同オーナー、マイケル・マージーの甥である。

ところが本人は、伯父の専門であるヘアカットよりも、ヘアカラーに興味を湧いたという。

「カラーは人々の生活を変えることができるから。違うカラーによって、人はどう感じるのかを、左右される。だからヘアカラーで人生を変えることができるんだ」

とクリスチャンは語る。

「ヘアカラーはファッションと一緒になんだ。だから、いつも雑誌に目を通したりしながら、トレンドチェックをしているのさ。お客を時代に乘せてあげることは、僕の義務だと思うから。最近のトレンドは70年代のレトロ感覚。昔の流行りの繰り返しみたいだけど、現代ではそれをもっとベターなものにできるんだ。対称的なカラーの使い分けがトレンドだと思う。例えば赤にするんだったら、ビビッドな赤にする。それでいながら、ナチュラルにね。いまの時代ほど、ヘアカラーがナチュラルになったことはないと思うよ」

リーランド・ハーシュの秘蔵っ子、“ヌーベスト”のトップ・カラーリスト。クリスチャンがこの先、どんなトレンドをこのニューヨークで生み出すことになるか楽しみなところだ。